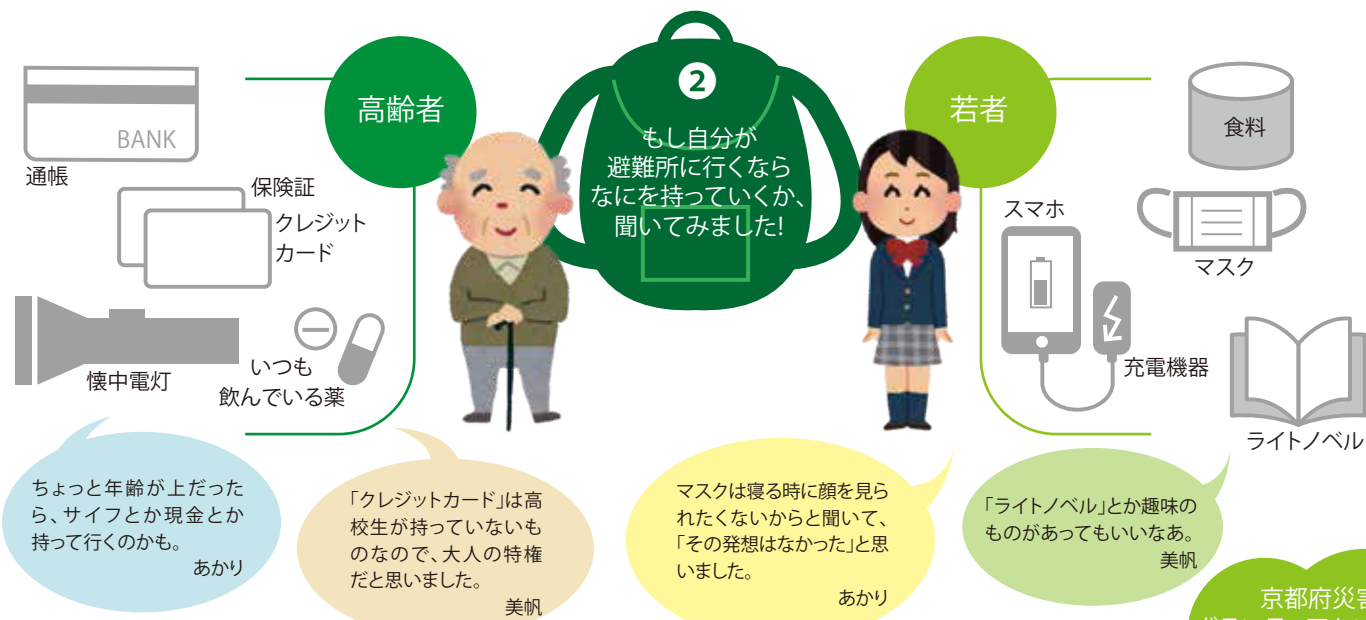




京都府災害ボランティアセンターにインタビューしてきました!

まとめ

担当者へのインタビューで、災害時にはスマホが重要というのが「そういう時代がきたかな……」と感じがします。自分が小さいころは懐中電灯とかを想像していたけど、情報を得る手段の重要性が高まってきたかなと感じています。それと同時にSNSの使い方を災害時には特に気を付けないといけないと思いました。

また「若者への配慮(支援)は避難所において忘れられやすい」とおっしゃっていたことが印象的でした。今回の取材を通して自分たちの防災意識も高まったため、普段から用意する大切さを改めて感じる事ができました。この記事を読んだ読者の方の防災意識も高まれば嬉しいです。

Q2 ②のアンケートをふまえて、本当に必要なものってなんですか?

A2 家族・友人との連絡手段としてスマホは重要。それに伴って、バッテリー関連も必要です。しかし、災害の程度にもよるし、避難する時間が長い場合は生活用品一式が必要になりますが、一晩過す程度なら少

Q1 災害時にSNSはどのように活用すればいいですか?

A1 普通の電話ではつながらないときに、LINEの無料通話を活用するのいいと思います。Twitterは#(ハッシュタグ)を使うことによって自分の得たい情報を得ることが出来ますが、発信する時にむやみやたらに使わないように気を付けてください。また、「うしろみ」みたいなような曖昧な表現は災害時にはなるべく避けてください。SNSからは離れますが、もしも携帯電話が使えなくなった時のために、家族や職場、学校などの電話番号は覚えておくとう安心です。

①と②の記事をふまえて、担当者に意見を聞いてみました。

なくても大丈夫かと思えます。食料やタオル、アルコール消毒などの物資は行政から優先的に送ってもらえます。これも災害の程度にもよりますが、府内では24時間以内に毛布・水などが順番に届くよう取り組まれています。

医薬品はなかなか届きにくく、医師の診断がないともらえないため、いつも飲んでる薬や常備薬を持つておくことも重要だと思います。

それ以外にも、人それぞれに必要なものは全然違うので、普段からいざという時に必要最低限のものは何か、自分にとって大事なものは何かを考え準備しておこう!

※京都府災害ボランティアセンター

災害時に行政・社会福祉協議会・NPO・ボランティア団体等が協働し、被災者支援のためのボランティア活動として効率的・効果的に実施していくことを目的に設立されたものです。

災害発生時に被災地内外でのボランティア活動の実施・支援等にあたるほか、日常的には各構成団体の連携ネットワークづくりに努め、人材養成・防災訓練の参加などを行います。

高校生が「防災」について考える

高校生が作ったページ

9月1日は防災の日。今年の6月には「大阪府北部地震」、7月には「平成30年7月豪雨」がありました。このことをきっかけに、いつ起こるかわからない自然災害に備えて、何を知っておくべきか、高校生の目線で考えてみました。

小嶋あかり(18)

的場美帆(18)

ここでは、高校生が日頃から使っているSNSが今回の災害時にも役に立ったという事例を紹介します。

災害時のSNS

Twitter

災害に関する共通キーワードを入れてハッシュタグをつけて投稿します。知りたい情報も#(ハッシュタグ)を掘り下げていけば知ることが出来ます。ハッシュタグをつけて投稿することで、寄付できるものもあります。Twitterで被害が大きい地域付近の情報を知って、外出を控えたというエピソードもありました。ツイッターを開いたらみんなが「揺れた」とつぶやいていると安心感がある気がします。

LINE

周りのみんなは結構安否確認で使ったと言っていました。自分が知っている相手だから、情報に信頼性があるという特徴があります。また、グループLINEだったら特定の多数に情報を送ることが出来ます。クラスメイトでつくるグループラインで休校情報や帰宅したかの報告をするという使い方をしました。

先生が生徒用のグループLINEに、安否確認のために入ったエピソードもありました。

Facebook

「災害支援ハブ」というサービスで安否を投稿できるので海外の知り合いにも自分の安否を知らせることが出来ました。また、発信側はFacebookには正しい情報を載せるように心がけたと言っていました。便利なのは、電話番号を知らない人でもメッセージでやりとりできることです。

災害支援ハブを利用して、被災した人が自分の安全を友だちに知らせたり、支援・サポートの要請や提供を行うたり、最新のニュースや情報を得ることが出来ます。

Instagram

24時間で消えるストーリーという機能があり、そこで学校や気象庁のHPのスクリーンショットを載せて、休校情報や警報注意報などの情報を得ていました。有名人がストーリー機能で、避難場所やボランティアの情報をスクリーンショットで発信していました。また、困っている人が有名人のアカウントにコメントして、それを拡散していました。

※ストーリーは通常の投稿とは違い、時間が経てば消えるストーリーには日常の小さな出来事でも気軽に投稿できます。

まとめ

身近なSNSが情報の発信や受信に役立つこともあれば、デマなども出回ることがあるため、惑わされることなく上手く活用していきたいです。